優秀賞

未来への一歩に現状を知る

美唄市立美唄中学校　３年　藤澤　花梨

「知識は力なり。」これはイングランドの哲学者、フランシス・ベーコンの言葉です。皆さんの知識はどのくらいあるでしょうか。知ろうとする意欲はどのくらいあるでしょうか。どんなことでも知ることからはじまるのです。私が知ることの大切さについて、一層強く認識したきっかけをお話ししようと思います。

日本は水の豊かな国です。水道の水でさえも安心して飲めるのですから。日本は水の豊かな国、そう考えていた私は、この言葉を聞いたとき信じられない思いでした。NHKの特集で語られた『日本も本来は水不足である』というお話です。

「バーチャルウォーター」という言葉をご存知ですか。特集の内容はこの事についてです。たとえば、小麦一キログラムを生産するためには約二千リットルの水が必要になります。つまり、栽培のために使用された大量の水も輸入したといえるのです。これを仮想水、またはバーチャルウォーターといいます。食糧自給率が三十八パーセントと多くを輸入に頼る日本は、必然的にバーチャルウォーターも多くなってしまいます。その量は、年間およそ八十兆リットル。『数字の大きさに驚くだけでなく、この考えを通して世界の水資源問題を理解するよう、意識してもらいたい。』そう締めくくられた記事を読み、「日本は水不足である。」という言葉が真実であると納得しました。それまでは遠い国の問題だと思っていたことが、自分たちにも深く関わりがあるという意識に変わったのです。

イギリスの環境経済学の専門家などがまとめた報告書にはこんなことが書かれていました。二千年からの二十年間で干ばつが発生した回数と期間は、その前の二十年間と比べて約三割増加しています。このような事が原因となり不作が続けば、食料の輸出を停止する国が増えます。そうなれば世界各地で暴動が起きるなど社会不安が増やす可能性があると。そして、その影響は日本にも及ぶでしょう。

この事を知ったとき、私はとても怖いと思いました。日本は莫大な量の水を消費しています。今までは大丈夫だったかもしれない。けれど、これからはどうでしょう。私がそうだったように、この問題を他人事だと思っている人はどれだけいるでしょう。逆に、この問題を身近に感じている人はどれだけいるでしょう。

この不安は今も変わらずあります。けれども、すでに行動を起こしている人もいるという事を知りました。その一人が中村哲さんです。この方はアフガニスタンでかんがい水路を自ら整備し、安定して食料生産ができる土地へと変えたのです。他にも、カーボンニュートラルと同じように、ウォーターニュートラルを掲げている企業などがあります。そこでは自分たちが工場やビジネスで使った水を同じ分だけ地域に戻す努力をしています。

どんな事でも、問題を解決するためにはそのことについて知らなければなりません。私は遠い国の問題が自分たちとこんなにも深く関わっているとは思いませんでした。しかし、「バーチャルウォーター」を知ったことで変わったのです。たったそれだけのことで意識ががらりと変わった。だから私以外の人にも、色々なことに触れて知識を得てほしいと思うのです。自身に関わりがあるということは、自分にも何かができるということだから。

水資源の問題だけではありません。世界規模でなくとも当てはまります。どんなことでも知らなければはじまりません。きっかけは映画や本であったり、実体験であったり様々です。それが広まって、たくさんの人が気持ちを共有していく。大きな問題の解決はそんな風にはじまるのではないでしょうか。そのために、私ももっと多くのことを知っていきたいと、改めて思います。